

午前11時10分再開

○議長（半田雄三君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、12番柴山恭子議員の質問を許可します。12番柴山議員。

（12番柴山恭子君登壇）

○12番（柴山恭子君） 皆様、おはようございます。戦争の勃発した今、自分の健康づくりの話をするのも何だかと思いましたが、原稿に健康づくりを書いてしまいましたので、させていただきます。

私の健康づくりは、毎朝の1万歩と1日合計3万歩を目標として歩いておりました。この散歩に何の不安もなく、幾つになっても歩き続けられると思っていました。ごみの入ったビニール袋が道に捨ててあり、1日目、2日目、見て見ぬふりをいたしました。3日目、とうとうごみを拾って持ち帰りました。散歩をしながらのごみ拾いの始まりです。月一度ほど、ビニール袋いっぱいのごみが捨ててあります。その日のごみは3キロほどで少し重かったので、足首を痛め、長く散歩できなくなってしまいました。このときになって体力は年とともに低下するのだと気づきました。

今は車を運転し、どこへでも行けます。しかし、いつかは運転できなくなる日が来るでしょう。少しでも長く安全に運転できるよう、日々の健康づくりのやり方や地域に応じた移動手段について考えさせられます。

今回の一般質問は、住民の皆様から寄せられた相談事などを取り上げさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

（12番柴山恭子君降壇）

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） まず、公共交通についてお尋ねします。

私は、令和3年度第1回交通会議録を見ました。利用者数は全国的に減少、高齢者の免許証保有率の上昇が起因しているかもとあり、利用者数は90%が65歳以上の高齢者で占められ、買物、病院、路線バスや鉄道へのアクセス手段として利用されており、1便当たりの平均乗車人数は1.5人、相乗り率は毎年低下する傾向にあり、杷木東部の運行率が低いとあります。

お尋ねします。この交通会議には、各地域の利用者の参加もありますか。利用者の意見も聞き、これからの運行のやり方を変えるというようなことがありますでしょうか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 交通会議の構成員は、関係行政機関の職員や交通事業所の代表者及び市民の代表者など、計20名で構成されております。

市民の代表者としては、コミュニティ協議会会長や老人クラブ連合会、区会長理事会等の代表者7名に参加をいただいております。利用者のほうは入っておりません。

利用者の意見につきましては、毎年1回、利用者アンケート調査を行い、満足度や要望

の把握に努めまして、その結果を交通会議の中で報告し、対応のほうを協議しております。以上です。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 私は、利用者がこの会議に入っておりますかと聞いただけで、全員の名前を聞いた覚えはありませんが、いろんなことがありまして、やはり利用者の意見もお聞きしたり、いろんなことがあるでしょう。しかし、利用者の意見を直接その会議の中で聞くことはとても大事なことです。

いいですか。アンケートはいろいろなことがあるでしょう。しかし、利用者が今どんなことを思っているのか、どうしてもらいたいのかというのは直接、彼女、彼らからの意見を聞くべきです。よろしいでしょうか。（「はいちゅうて」「はい」と呼ぶ者あり）

次に、コミュニティバスの運行経費は、これは間違っておるかもしれませんが、私が調べた限りですので、すみません。5,190万円、あいのりスクールバス等を含めるとどれぐらいになりますでしょうか。1人当たりの経費はどれぐらいでしょうか。どこまでこれが頑張れるか、お願いします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） あいのりスクールバスは、スクールバスの空き時間を利用し、市民の輸送を行う運行形態であるため、あいのりスクールバス事業として新たに必要となる経費は、ガソリン代と予約受付経費、合わせると年間11万円程度になります。コミュニティバスの運行経費と合算しますと、全体の運行経費は約5,200万円となります。1人当たり経費は約2,800円で、運賃収入を差し引いた額は約2,700円となります。

それから、どこまで頑張れるか、事業を継続することができるかという問いですけれども、地域住民の移動手段を確保するために事業の効率化を図りながら、可能な限り維持継続に努めていきたいと考えております。以上です。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） ちょっとやり方を変えます。あいのりスクールバスの経費は、どれほどかかっておりますでしょうか。

○議長（半田雄三君） 防災交通課長。

○防災交通課長（浦塚武実君） あいのりスクールバスの経費につきましては、先ほど部長が申しましたとおり、新たに住民を乗せるということで必要となる経費は、ガソリン代と受付費用、合わせて年間11万円でございます。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 質問の仕方が悪うございました。スクールバスの経費は、どれぐらいでしょうか。

○議長（半田雄三君） 防災交通課長。

○防災交通課長（浦塚武実君） スクールバスの経費は、年間1,100万円ほどでございます。

す。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） ありがとうございます。公共交通のない地区、交通空白地の解消を目指した予約型のあいのりタクシーやコミュニティバスが、住民の皆さんから、なぜか不便を感じられるという問合せがあります。

市としても、今の予算を聞くと非常に無理をしてあることは分かりますが、何とか利用者からの改善要望等を聞きながら、地域に合った見直しが必要だと私は考えておりますが、行政としてはどうお考えでありますでしょうか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 利用者アンケートにおきまして、予約制度や運行本数等について満足度を調査しておりますが、その中で「不満またはやや不満」と回答された割合が高かったのは、運行本数で37%、運行経費で19%、予約制度で18%、運行日数で16%でありました。

不満の要因は、運行本数や運行日数が少ないこと、予約の煩わしさなどであると捉えております。運行本数や運行日数につきましては、一定の基準を設けて路線ごとに運行水準を見直すようにしておりますが、運行稼働率は全体的に5割に満たない状況にあり、現状では運行本数を増やすことは難しいと考えております。

また、予約制度については導入当初、利用される前日までの予約としておりましたが、現在では利用される便の1時間前まで可能としたり、1週間まとめた予約を可能としたりするなど改善を図ってきたところでございます。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 分かりました。私も見ました、満足度を。私のところに言ってこられる人よりも満足度は高いなあと思いましたが、でも皆さんからいろいろな不満や不平が私に寄せられるのは致し方ないことで、私にしても乗らないからよく分からないんですよ。でも市民の皆様の意見を聞きながら、今日こうして住民の皆さんと一緒に話合いも行ってくださいというようなことをしておりますので、よろしくをお願いします。

そのとき私は、ふと考えたんですよ。どうして各地域でから協議をちゃんとしなれんとやろか、各地域の住民の皆様の一一人一人の声を聞くことがないっちゃろかとか、いろいろ思いましたので、その辺りも今後考えてほしいと思います。

そしてもう一つ、こう思いました。例えば、週1回病院に行く、買物に行くようなときはコミュニティに何らかのお力添えをしていただくようなことはできないだろうかとか、いろんなことを考えます。

これは市民の皆様と顔と顔を合わせて計画を立てることで成り立つことですので、今、デマンドにちょっと不満があるような話をされましたが、予約型からドア・ツー・ドアはもう無理だとは思いますが、少しでもドア・ツー・ドアに近いような検討も私は必要では

ないかと思しますので——第一、公共交通の利便性に取り組む総合計画にも書いてあるんですよ。だから、大変でしょうが、私は住民の皆様の意見もよく聞いて新しいやり方でやってほしいと思います。

副市長、会長ですよね。短く意見をお願いします。

○議長（半田雄三君） 副市長。

○副市長（右田博也君） コミュニティバスにつきましては、移動手段を持たない高齢者の方でありますとか障害者の方など、交通弱者にとっては欠かせないライフラインであるというふうに考えていますので、今後ともコミュニティバスの運行が必要であると考えております。

こういった事業費につきましても今、御指摘ありましたとおり、多額の費用がかかっているということもございしますが、公共交通サービスとしての公平性でありますとか、あるいは福祉的な役割というところを考えつつも、財政的な視点というところでバランスを取っていく必要はあろうかと思えます。

先ほど来、議員のほうから様々な御意見もいただきました。利用者のアンケートを市のほうでも取っておりますが、こういった利用者ニーズの把握に努めながら、今後も地域、それから交通事業者の皆様とも協議をしながら、利用者の利便性や運行の効率性を踏まえました事業内容の改善を図っていきいと考えています。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） あと副市長、地域に合った見直しが必要だと思いますし、地域の皆さんと顔を合わせるような、そんな会議もよろしくお願いします。よろしいでしょうか。

○議長（半田雄三君） 副市長。

○副市長（右田博也君） 今後の検討にさせていただきたいと思えます。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 上下水道の整備についてお尋ねします。

上下水道の役割と必要性をお尋ねします。

○議長（半田雄三君） 都市建設部長。

○都市建設部長（山南哲也君） 上下水道整備の役割と必要性についてということでございます。

水道事業につきましては、安全で良質な水の安定供給を目的というふうにしております。

下水道事業につきましては、トイレを水洗化することにより清潔で快適な暮らしができ、雑排水を処理することによりまして、河川・水路等がきれいになることを目的というふうにしております。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 上水道整備の普及率についてお尋ねします。

○議長（半田雄三君） 都市建設部長。

○都市建設部長（山南哲也君） 上水道整備の人口普及率につきましては、住基人口に対する普及率としまして48%というふうになってございます。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 下水道の整備率もお願いします。

○議長（半田雄三君） 都市建設部長。

○都市建設部長（山南哲也君） 下水道整備につきましては、浄化槽を含む本市の下水道事業の普及率は76.9%となっております。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 今後、住民サービスの公平性を保つためにも、整備が終わっていない地域の早急な整備が必要となりますが、今後の計画をお尋ねいたします。

○議長（半田雄三君） 都市建設部長。

○都市建設部長（山南哲也君） 下水道事業につきましては、国の補助事業を活用し、継続的に整備を進めております。以上です。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 上水道も今、言いましたが。

○議長（半田雄三君） 答弁をお願いいたします。上下水道課長。

○上下水道課長（石田裕二君） 上水道の整備につきましては、道路改良に伴います同時布設、そういった部分を中心に拡張をやっていっているところでございます。以上です。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） それでは、きちっとした計画はないということですね。

○議長（半田雄三君） 上下水道課長。

○上下水道課長（石田裕二君） 計画そのものとしたしましては、朝倉市の全体的な計画につきましてはあるんですけども、現在、何年度までにどこを整備というような形での特に補助事業等を使った計画はございません。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 朝倉の一部の地域では、地下水に少量のフッ素が入っており、虫歯の罹患率が低いというお話や、大きく人体に影響はないが、自然界の少量のヒ素が検出される地下水もあると聞きます。上水道では厳密な水質検査が行われておりますでしょうか。

○議長（半田雄三君） 都市建設部長。

○都市建設部長（山南哲也君） 上水道につきましては、水道法の水質基準に基づき厳格な水質検査を行っております。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） それでは、地下水の水質検査はどのように行われているかをお尋ねいたします。

○議長（半田雄三君） 都市建設部長。

○都市建設部長（山南哲也君） 地下水につきましては個人井戸の管理というふうになりますが、個人井戸の管理は個人の責任において行われているというふうに認識をしております。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 個人の井戸は100%個人の費用によって掘られます。検査も丸々個人任せというのは何かちょっと嫌な気がしますし、まず水質検査はどこで行われますでしょうか。費用はどれぐらいかかるのでしょうか。上水道の普及率が低い中、せめて水質検査の必要性和何らかの費用負担をすべきではないですか、お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 都市建設部長。

○都市建設部長（山南哲也君） まず、井戸につきましては、個人において井戸を掘りまして、水質検査についても個人で実施をされております。

水質検査につきましては、各個人が公的機関及び民間の検査機関に依頼されているというふうに聞いております。

費用につきましては、検査項目によって異なりますし、検査機関によりまた異なる場合がございます。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 私は何が聞きたいかという、個人が水質検査をする場合に、手軽に近くのところで水質検査が安くできるんですかちゅうのを聞きたいんです。

○議長（半田雄三君） 都市建設部長。

○都市建設部長（山南哲也君） 水質検査につきましては、朝倉総合庁舎内にごございます保健福祉環境事務所の中に食品衛生協会という機関がございまして、こちらのほうに持ち込んで検査を受けることができます。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 地下水位低下により井戸がかれ、上水道の利用を申し込む市民に対する対応はきちんと納得できる説明がなされておりますでしょうか。市民としては対応に不満を感じているようです。

例えばですよ。あと3か月待ってください、頑張っ何とかしますと。3か月以上はかかるでしょうねという物の言い方では全然違います。市民にどうやって納得してもらって、時間がかかるようなことをきちっと説明をしてありますでしょうか。

○議長（半田雄三君） 都市建設部長。

○都市建設部長（山南哲也君） まず、費用につきましては、加入金、それから水道料金、宅地に給水管を引き込むための工事費、これが必要でございます。加入金及び水道料金は、給水管の大きさとか使用水量に応じた金額であることを説明いたしております。

このほか期間的なものにつきましては、工事費の設計をしまして積算、その後に発注し

て工事の期間が必要となってまいります。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 分かっているんですよ、そういうことは必要だろうと。でも、その説明の仕方を市民の皆様にも、あつ、分かった。もう大ごとやろうけれど、お願いしておきますね、また聞きに来ますねというような相互の話合いができるような説明の仕方をやってほしいと言っているだけです。お願いしますよ。

なぜ地下水位低下が起こると思われませんか。

○議長（半田雄三君） 上下水道課長。

○上下水道課長（石田裕二君） 上下水道課といたしましては、地下水位の状況を把握している状況ではありません。上水道を整備するということが中心になりますので把握をしておりますが、全般的な一般的な考え方としては、水を蓄える山、そういったところが開発をされたりですとか、雨の降り方の変化、急に降って、また降らない時期が長く続くと。そういったことが起きますと、やはり地下にしみ込む水は減っていくのではないかと。また、地下水そのものの使い方にもよるといふふうに思っております。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 私が今回この質問をしようと思ったのは、地下水がかけました、浅井戸だからかけました、近所に深井戸が掘られてかけました。まず、20メートルなり15メートルの井戸がかけられた。それでは次に、30メートルを掘りましょう。それがかけたら、次は40メートルを掘りましょう。次がかけたら50メートル、そんなことをさせるのですか。

議長、12番。もう一回。12番。ごめんなさい。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 答えにくいでしょうね。そんなことでは駄目だと私は言いたいんです。それは自分の土地にある水は自分のものと日本ではされております。川の水は公水だからいろいろ規制があつて誰でも自由に使うことはできませんが、地下水は誰もが自由に使うことのできる水です。でも、それをそのまま何もしなければ、地下水はどんどんどんどん下に下がって行って地盤沈下などが起こるようなこともあるそうです。

私はこの質問をするに当たり、この「地下水は語る」という本と「地下水の化学」ちゅうのを読ませていただきました。これによると、地下水は非常に重要であり、その地下水の状況を把握することがどれだけ大切なことかと書いてありましたので、この質問をしております。

この本の中にはこう書いてあります。なぜ地下水位低下が起こるのか。地下水は観測井戸を設置すれば容易に測定することができる。地下水位が上昇にあるか、下降傾向にあるか、変動するかを観測することはとても重要であると、この「地下水は語る」の守田先生は書いてあります。

朝倉市は水が売りでしょう。「水ひかる朝倉」ではありませんか。その中で地下水の状

況を考えないというのはおかしいと思いますが、どう思われるでしょうか。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） すみません、これは通告をしておりませんでしたので。大事なんです、地下水位の状況を観測することは。そして、そんなにお金もかからなくて大変なことじゃないらしいですので、どうか皆さん方、この本を読んでみてください。地下水の大切さが書いてありますので、お願いします。

畜産団地がふん尿で、寺内ダムに流れ込む水が非常に汚なかったですよ。あれを畜産団地が撤退した後に水源の森づくりが始まって、市民の皆さんや学生の手によって水源の環境づくりが進められました。はげ山がだんだん緑の山になって桜の山へと変わろうとしております。

そして、朝倉市は……。見ましたか。朝倉市移住・定住プロモーション動画。市長、見られた。よかった。それにはこう言っている。

蛇口から出る水は湧き水のようにまろやか。米・麦・水の里あさくらの酒づくり、水がおいしいからコーヒーがおいしいカフェ、朝倉は日が当たり、安心、安全な水でおいしいブドウができる。しょうゆづくりは朝倉の水が大事、甘木絞り、水質のよさで日本一。地下水をつくり、地下水を守る。昔、豊富だった湧水や地下水の保全に力を入れ、水ひかる朝倉、水を使った本当の事業を推し進めるべきだと私は考えます。

そのためにも地下水の管理はいかにするべきなのか、地下水のモニタリングや水質、地下水利用状況の情報、そこから地域で守るべき適正な地下水を設定し——これは全部これに書いてあるんですよ。読んだら分かると思います。設定し、地下水・揚水規制、地下水改良事業などの水循環保全に主体的に取り組み、同時に地下水に関する条例や制度、地域で守るべきルールなどを自主的に決めていく。持続可能な地下水管理により、より豊かできれいな地下水を将来の世代に残すことができる。そう考えられております。

市長のお考えを聞きます。

○議長（半田雄三君） 市長。

○市長（林 裕二君） 2月から発信しています動画の仕事編ということでありまして、見ました。まさに朝倉市は、そして私も目指しております「水のまち朝倉」でございますので、議員の熱の入った質問については、よく分かる気がいたしております。読まれた本をぜひ読んでみたいというふうに思います。

水は地下の中に循環してたまっていきます。その水を美しい清らかな水をたたえてきたのが朝倉でありますので、しっかりと議員の言われることを、本を読むということも含めまして取り組んでいきたいというふうに思います。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） よろしく申し上げます。

次に、移住・定住を促進する支援事業の拡大についてお尋ねします。

前回、市長は朝倉に住み続ける住宅の助成制度の在り方について質問をした折、しっかりと考えていくと答弁があり、支援事業の拡大とも書いてありましたので、移住による補助金は1週間でも住所を移すと適用されないかとの市民よりの質問がありました。支援事業の拡大とは何を拡大されたのか、お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 都市建設部長。

○都市建設部長（山南哲也君） 朝倉市住宅補助金につきましては、朝倉市の地域経済の活性化と定住促進を図るため、朝倉市外に在住の方が朝倉市に転入する際に行う住宅の新築等に対し、その費用の一部を補助する制度でございます。このことでは現行の制度上、朝倉市に転入された後の補助申請は、これまでも対象外となっておりました。このようなことから、令和4年度より制度の内容を一部見直し、補助申請の時期を朝倉市に転入後1年以内とする方向で検討作業を進めているところでございます。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 分かりました。私は少しでも前に進んでいけば、それで皆さんが頑張れると思いますので、どうか少しずつでもその補助金の制度の在り方などを考え直してほしいと思います。

次に、将来の地域を支える若い世代が地域に愛着を持ち、地元定着につながる活動機会の創出とありました。

高校生の提言などの取組が行われ、これを活用した政策実行は応募した生徒にとって将来の夢となったでしょう。とてもよかったです。これまで何件ぐらい政策として実現しましたでしょうか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 高校生の提言事業につきましては、朝倉市の将来を高校生の視点や感性で捉え、魅力ある地域活性化策を提言としていただくもので、平成23年度から実施をしております。

事業を通してまちの魅力に気づき、郷土に愛着を持つ若者を増やし、今後の朝倉市に合う人材を育成することを目的としております。将来、定住人口や関係人口を増やすためにも有能な事業だと考えております。これまで発表会の中で65件の提言をいただき、その中から多くの提言を事業実施に結びつけることができっております。

直近では、令和2年度に小学生が描いた旬の農産物の絵や、食に関する豆知識を掲載した食育カレンダーを作成し、市内小中学校に配布したほか、直売所でも来店者に配布し、朝倉市の魅力をPRすることができております。また、朝倉市の食材を詰め込んだ「おにぎりレシピコンテスト」を実施しまして、朝倉高校生の授業の一環として生徒の皆さんに審査をお願いいたしました。入賞作品については、今年度、おにぎりや地場産品を使った百人一首弁当を朝倉光陽高校と開発し、三連水車の里で販売をしました。

さらに、市立保育所の給食として、小中学生部門、最優秀賞のカルシウムたっぷりおに

ぎりを提供しております。以上でございます。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 私の記憶の中にはいろんな提案がありました。その中で実現されたのが赤ちゃんホテル、赤ちゃん駅、何かそういう形で赤ちゃんに対することがありまして、実現はしなかったのですが、漢方薬を大きい木の中に例えばお茶とか、その大きい……。あつ、ハゼノキちゅうた。

ハゼノキの木の下に甘草を植えて漢方薬などを作るような事業も提案されました。これは直接、製薬会社へ行き、社長との交渉などもされたようですが、どうしても朝倉市では高くつき、やはり輸入品に頼るしかないというような答えを得てきたようです。このように高校生、朝倉市に住む子どもたちは一生懸命、朝倉市政のことを考え、いろいろな提案をします。

今度、朝倉東高校は株式会社を立ち上げました。校長は、生徒たちが地域の活性化についてしっかりと貢献できるよう頑張る。これから社会に出ていく生徒たちにとっての指針となり、起業することができればよいとも言っていました。この高校生の提言をいつも聞くんですが、それはすばらしい。高校生たちはいろんな提案をしてくるし、それを発表するまでにどれだけの力が要ったのだろうかと感心させられます。

じゃあ、行政にお尋ねします。子どもたちが朝倉市に興味を持ち、課題を見つけ、地域に愛着を持ち、地元定着につなげる。自分に何ができるかを真剣に考えるとき、行政として子どもたちに何らかのアピールをしていますか。

例えば、月1回でも週1回でもいい。高校、中学校、いろんなところに赴いて「朝倉市は今、高齢化だからこんなことで困っているんですよ」「朝倉市は今、公共交通にしても、こういうところが困っています」「皆さんの意見を求めたいんですが」というような行政側からの子どもたちに対する提案等はなぜ行わないんですか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 高校生に関する事業として、市内にある3校とも朝倉市の未来予想図、高校生の提言に積極的に参加していただくとともに、ふるさと納税の返礼品としまして、お菓子やジャムの詰め合せである朝倉3校コラボセットを出店してもらっております。

また、市は、令和3年4月に朝倉東高により立ち上げられました朝倉東高等学校地域連携事業協議会に朝倉商工会、久留米大学などと参加してきました。

また、その協議会の前身であります準備連絡会から参加をしてくれており、この間の朝倉東高の活動については少なからず承知しているところでございます。

これまで同高の活動に対しては、朝倉市の地方創生について資料提供や市職員による講演、さらには校内での発表会のための質問、取材なども受け入れてきました。

また、昨年秋に高校の外で行われました甘木町での文化祭などに対しましても、事務的

な後方支援を行ってきました。

併せて、市施設の利用協力なども行ってきたところでございます。

今回の株式会社設立に対しましては、直接、補助金等の助成は行っておりませんけれども、株式会社設立の目的であります地域の活性化やキャリア教育などの活動について、今後の活動に非常に注目をしているところでございます。

本年1月19日に校長先生と2名の先生方が来庁され、株式会社についての説明及び今後の可能性、展開などを市長と懇談を行っております。市としましては、今後、地域振興や観光など、様々な分野で連携・協働・協力できるものがないか考えているところでございます。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） お願いしますよ。子どもたちは若いし、何かをやろうと思うときに活力がある。私は地域交通のときも言いましたが、人と人が会って、そこで話し合って朝倉市のこんなところが自分たちは困っちゃう、子どもたちはこんなことがしたい。そんなふういろんな話合いを市と学校とがすれば活力のある学校となりますし、現に鹿児島県立大口高校とか長崎県立松浦高校は、学校と地域の事情を理解し、地域と良好な関係を構築するため、熱意のあるコーディネート力のある人材を学校に派遣して学校と一緒に話合いをしているそうですので、どうでしょうか。

朝倉市としても何らかのことは——東高だけを言っているんじゃないですよ。農業高校もあるし、普通科の朝高もあるし、そういうふうにそういうことをやってほしいんですが、どうでしょうか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 各学校のほうと顔を突き合せた形で協働・協力をしていきたいと思っております。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） よろしくお願いします。ここが朝倉市活性化の鍵です。これを行うことで、もしかしたら朝倉市はすばらしい、こんなところなら地元に戻りたいと思ってここに住み着くかもしれんし、そういうところを考えながらよろしくお願いします。

最後に、犬猫対策についてお尋ねします。

私の友人は秋月に住み、放し飼いの鶏の卵などを売り、野菜を作り、自然に近い生活を楽んでいるようです。彼女からの相談です。ここにはなぜか犬、猫、鶏、ウサギなど、いろいろな小動物を捨てていく人が後を絶たないというのです。

フランスではペットの店頭販売が禁止されるようですし、日本でもチップなどの取組が行われるそうです。

かわいそうだと猫を1匹連れ帰り、何もしなければ猫屋敷になるそうです。自分では手がつけられなくなってしまい、生活の崩壊にも至るといいます。1匹の母猫から出産され

る子猫は約6匹、不妊手術をしなければ1年後に50匹から70匹になるといわれております。

飼い主のいない子猫を増やさないために地域猫の不妊手術を行い、さくらねことする。すぐになくなってしまおうといひます。100万円なんですよ、100万円の予算。そして、かかるのはもうこれはすみません、私の調査だから。1万5,000円。補助金は5,000円、残りの1万円は自分で出して地域猫の耳を切って、さくらねこをして妊娠しないようにするという、この事業は100万円だと20匹で終わってしまいます。

どうか、この予算を少しでも増やして地域猫が少なくなるよう努力してほしいんですが、どう思われますか。

○議長（半田雄三君） 市民環境部長。

○市民環境部長（中山貴可君） 朝倉市では、平成26年9月に飼い主のいない猫、不妊・去勢手術費補助金を開始いたしております。

この補助金は、飼い主のいない猫の過剰な繁殖に伴う殺処分を減らすとともに、猫のふん尿等による近隣被害を防止し、もって市民の動物に対する愛護意識の高揚と快適な生活環境の保持に資することを目的といたしております。

この助成内容につきましては、ただいま議員のほうから御紹介がありましたように、1件につき5,000円の補助を行っております。過去3年間の実績につきましては、平成30年度が16件、令和元年度が12件、令和2年度は21件という状況でございます。今年度におきましては、既に予算額である20件分に達している状況でございます。昨年度から申請が増加しているということ踏まえまして、新年度予算案では増額の計上を行っているところでございます。以上です。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） よろしくお願ひします。広島でしたかね、みなしご犬猫センターというのがありまして、そこでは殺処分ゼロを目指しているそうです。

私たちが行政側にこうヤンヤンヤン増やせ増やせと言うだけではなく、寄附金なども集めながら、そして皆さんに協力をさせていただきながら解決の道を探さなければと思っておりますので、丸々1万5,000円は無理でしょうけれど、本人負担が5,000円、市からは1万円ぐらい出していただくと、そういう猫も少なくなるんではなかろうかと思ひますので——今回は増やしてあるそうですので、今後ともどうぞよろしくお願ひします。

○議長（半田雄三君） 市民環境部長。

○市民環境部長（中山貴可君） 市の予算と併せまして今回の御質問をいただきまして、県や他の自治体の状況を調査いたしましたところ、福岡県獣医師会や公益財団法人動物基金による不妊・去勢手術の助成事業がございますので、その事業内容の詳細を調査いたしまして、市の助成事業と併せて、飼い主のいない猫、それを減らす取組の向上につなげていきたいというふうにお願ひしております。以上です。

○議長（半田雄三君） 12番柴山議員。

○12番（柴山恭子君） 皆さん、よろしくお願ひします。市民の皆さんの一人一人ときち
っとした顔と顔を合せての話し合ひをしながら、それを市政に生かしていくことが大事で
す。

どうぞ皆さん、朝倉市の活性化のため、住みやすい朝倉のために努力していただきます
ようお願ひをして、私はこれで一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（半田雄三君） 12番柴山恭子議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。午後1時に再開いたします。

午前11時58分休憩